



学校がまちを変える まちが学校をかえる

刈谷工業高校 前校長 鈴木直樹氏

今年2月に「ものづくり日本文部科学大臣賞」を受賞した刈谷工高は、数々の技能大会で優秀な成績を取っています。学校教育に「ジャストインタイム」というトヨタ方式を導入したり、ユニークなアイデアで数多くの成果をあげてこられた鈴木氏にまちと学校についてお話を伺いました。



【鈴木直樹氏プロフィール】

(株)豊田自動織機勤務を経て、県下初の民間出身校長として鶴城丘高校(西尾市)校長に就任。その後、刈谷工業高校校長を務められ、平成24年4月から刈谷市副市長に就任。



Q..刈谷工高は、の行事にも積極的に参加されていますね
鈴木氏(以下鈴木)..はい。いろいろやってますよ。刈谷駅前のイルミネーションやハイウェイオアシスでロボットの「ヤッターワン」を動かしたり、総合文化センターに「はやぶさ」ミニモデルを展示したり、昨年は高津波地区文化祭にミニ電車を走らせて喜ばれました。
Q..地元への活動は生徒さんにとってどんな意味がありますか？
鈴木..学内での文化祭の活動成果発表とは違って、一般の方にも見てもらえることは大変有意義な体験になりますね。特に地元の場合は、みなさんの反応が直に伝わりやすいので、良い評価になれば「次はこうしよう」とかやる気も出るし、学校全体の評価も上がります。
Q..地元の方の反応はいかがですか？
鈴木..皆さんあたたかく迎えてくれますよ。地元行事は年配の方が多いので、若い生徒が入るとそれだけで雰囲気も変わりますしね。高校生になるとそれなりに責任感をもって任ず

ことができず、やはり、の方と直接ふれあえることが大事ですね。目上の人への接し方、小さい子たちへの接し方など、生徒もいろんなことを学ぶことになります。『技術者たる前に、人間(ひと)たれ。』が校訓なんです。
Q..まちづくりと学校の関係は今後も大切になりますね。
鈴木..学校って色んな事ができるんですよ。まちの方にも学校を知って欲しいですね。たとえば高校は3年間なので、行事に参加した経験を次の後輩につなぐことができますよね。継続して双方に良い関係ができればもって面白く楽しいこともできますよ。生徒にとってもまちと関わることがまちの素晴らしさを知ることになると思います。まさに「学校がまちを変える まちが学校をかえる」そんな良い関係ができればいいですね。

●お知らせ●

『刈谷工業高校の日』

5月5日(土)

11時~15時

場所:刈谷ハイウェイ

オアシス岩ヶ池公園

●ヤッターワン登場

●ミニ電車に乗ってみよう

他



▲校訓 『技術者たる前に、人間(ひと)たれ。』

覚えていますか？我が母校の校訓



校訓 『プリキュー精神』

PLEASE (プリーズ) ...どうぞ
THANK YOU (サンキュー) ...ありがとう
EXCUSE ME (イクスキューズミー) ...すみません

昭和22年に開校後、昭和43年にこの校訓となりました。英語を使いカタカナで表す校訓は珍しく、先進的な校風を感じさせます。毎月公園や通学路のゴミ拾いなどプリカンと呼ぶ環境美化運動を行っています。



小高原小学校

校訓 「本気 元気 正直」

1908年開校。小山、高津波、重原の各地区の名前をとって小高原となりました。近年では英語教育に力を入れ、外国人の先生を交えて、1年生から英語の授業があります。



日高小学校

校訓 「めざす日高っ子」

ひろく豊かな心で学ぶ子(知)
だれとでも仲良くできる子(徳)
からだをきたえる子(体)
愛知教育大学が提唱する食育活動「食まるファイブ」の劇を演じて保育園などで上演しています。

